



週間情報



No.0329

発行日 令和3年8月24日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03(3234)1321

両会の動き

◆ 緊急防災・減災事業債の対象事業の拡充について

全国消防長会

令和3年8月19日、消防庁消防・救急課長通知「感染症に備えた消防本部等の業務継続のための施設及び設備の整備について」及び総務省自治財政局長通知「令和3年度地方債同意等基準運用要綱」の一部改正について」並びに関係事務連絡が発出され、消防本部等の感染対策のための施設及び設備の整備が緊急防災・減災事業債の対象となるよう改正されました。

この緊急防災・減災事業債の対象事業の拡充は、全国消防長会で実施した「令和4年度国の予算概算要求に関する要望」(令和3年6月29日)の「1 緊急防災・減災事業債の拡充について」中の「新型コロナウイルス感染症対策に伴う救急隊員等の感染防止対策強化について」の内容が反映されているものです。

- 消防庁消防・救急課長通知は、消防庁ホームページ(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/shyokyu210819.pdf>)に掲載されています。

消防本部の動き

訓練・演習

◆ 水難救助資機材取扱訓練を実施

倉敷市消防局(岡山)

倉敷市消防局児島消防署では、水の事故が増えるシーズンを迎えるに当たり、令和3年7月27日(火)、28日(水)の2日間、市内の大島海浜公園において、児島警察署と合同で水難救助資機材取扱訓練を実施しました。

当日は、救命ボートの操船訓練をはじめ、岸壁でのクレーンを使用したボート着水訓練のほか、要救助者を救命ボートに収容する訓練を行い、隊員の救助技術の向上や同警察署との連携強化を図ることができました。

今後も、関係機関との合同訓練を積極的に行い、有事の際に円滑な現場活動が行えるよう努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 国際消防救助隊技術訓練（ショアリング）を実施

柏市消防局（千葉）

柏市消防局では、令和3年7月30日（金）、本市消防訓練センターにおいて、国際消防救助隊技術訓練（ショアリング）を実施しました。

これは、木材等を使用して倒壊危険のある建物を安定化する手技であるショアリングを実施したものです。

当日は、27名の救助隊員が参加し、このうち6名の国際消防救助隊登録隊員が中心となり、建物内側から支える「Tポスト・ショア」と建物外側から支える「スプリット・ソール・レイカー・ショア」を設定しました。

訓練を通じて、同登録隊員の知識・技術を高めるとともに、そのほかの救助隊員への共有も図ることができ、とても有意義な訓練となりました。

今後も、独自の国際消防救助隊年間訓練計画に基づき、日々、訓練に励んでまいります。



【訓練の様子】

◆ 解体中の病棟を利用した救助訓練を実施

宇城広域連合消防本部（熊本）

宇城広域連合消防本部北消防署では、令和3年8月5日（木）、解体中の病棟（鉄筋コンクリート造3階建て）を利用した救助訓練を実施しました。

これは、倒壊・座屈建物内での救助活動を想定したブリーチング技術の向上を図るために実施したものです。

当日は、訓練の重点項目として、ブリーチング技術の向上はもちろんのこと、①作業に潜むリスクを想定すること、②各隊員間で情報を共有すること、③想定したリスクに対して安全管理を徹底することの3つを掲げて実施しました。

今後も、効果的な活動が実施できるよう、訓練を重ねてまいります。



【訓練の様子】

◆ 消防防災ヘリコプターへの給水訓練を実施

郡山地方広域消防組合消防本部（福島）

郡山地方広域消防組合消防本部では、令和3年8月5日（木）、6日（金）の2日間、三春町の滝桜駐車場（飛行場外離着陸場）において、福島県消防防災航空隊と連携し、消防防災ヘリコプターへの給水訓練を実施しました。

今回の訓練では、林野火災を想定し、田村消防署の水槽車から消防防災ヘリコプターへの給水要領を確認するとともに、同航空隊と様々な意見交換や情報交換を行い、現場対応力の充実強化を図りました。

今後も、関係機関と連携した訓練を積極的に行い、地域一体となり、「誰一人取り残さない消防」を目指してまいります。



【訓練の様子】

◆ 泳力強化訓練を実施

八女消防本部（福岡）

八女消防本部では、令和3年8月5日（木）、6日（金）の2日間、若手職員を対象とした泳力強化訓練を実施しました。

これは、管内を流れる一級河川の矢部川やその支流の星野川などで発生する水難事故に対応するため、若手職員の泳力強化を目的に実施したものです。

訓練では、指導員資格を有する職員によるクロールや平泳ぎの指導をはじめ、「スローバッグ」や「レスキューチューブ」を使用した救助法の指導を行いました。

若手職員の中には、学生時代に水泳の授業がなかったり、河川等での遊泳経験がなかったりという事情から、泳力に自信がない職員もいたため、泳力強化を図る上で有意義な訓練となりました。



【訓練の様子】

研修等

◆ ハラスメント研修会を実施

直方市消防本部（福岡）

直方市消防本部では、令和3年7月26日（月）、27日（火）の2日間、女性消防吏員活躍推進アドバイザーの久恒衛氏（福岡市消防局）を迎え、ハラスメント研修会を実施しました。

これは、当消防本部で初めて女性吏員を採用したことに伴い、女性吏員が生き生きと職務に従事できる環境を作るために実施したものです。

研修では、男性吏員が普段何気なく行っている行為で、「ズボンに上着を入れなおす」、「人前でTシャツを着替えようとして裸になる」、「下着などの洗濯物を置いている」などが、女性吏員に対してハラスメントに当たることを学びました。また、女性吏員の少ない職場では、相談しやすい環境を整えるために消防本部の枠にとらわれず、他都市の女性吏員や市役所の女性職員とのネットワーク作りが必要であることを学びました。

本研修により、改めてハラスメントの認識の甘さに気付かされ、有意義なものとなりました。今後も継続的に研修を実施し、男女が平等で働きやすい職場環境を目指してまいります。



【研修会の様子】

◆ 女性消防吏員活躍推進に関する研修会を開催

可茂消防事務組合消防本部（岐阜）

可茂消防事務組合消防本部では、令和3年8月2日（月）、総務省消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザー制度を活用し、推進アドバイザーの小野寺宏美氏（千歳市消防本部）を講師として、女性消防吏員活躍推進に関する研修会を開催しました。

当日は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、Web会議システムを使用したリモートで行い、幹部職員17名が受講しました。

研修会では、講師から「一人の女性、母親、救急救命士」として入職から現在に至るまでの貴重なお話を聞くことができ、女性吏員に対する理解を深めることができました。また、当消防本部では、他消防本部の女性吏員と意見交換を行う機会が少ないため、大変貴重な経験をすることができました。

今回の研修を機に女性吏員の活躍や新たな魅力について、あらゆる機会をとらえて発信してまいります。



【研修会の様子】

◆ 少年消防クラブ研修会を実施

三沢市消防本部（青森）

三沢市消防本部では、令和3年8月5日（木）、根井・朝日少年消防クラブ研修会を実施しました。

当日は、消火器の取扱体験をはじめ、筒先を持って行う放水体験やはしご車に乗って行う地上20mの高所体験のほか、米軍三沢基地内の消防施設の見学を行いました。同クラブ員は、日本と米国の消防車の違いや資機材の違いについて熱心に質問するなど、消防隊員と触れ合いながら消防の仕事を学びました。



【消火器の取扱体験の様子】



【放水体験の様子】

その他

◆ 人命救助協力者に感謝状を贈呈

久御山町消防本部（京都）

久御山町消防本部では、令和3年8月5日（木）、消防協力者に対し、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、令和3年7月9日（金）、管内で発生した軽自動車とバイクの交通事故において、バイクを運転していた23歳の男性が、軽自動車の下敷きとなり自力で脱出できなくなっていたところを、付近に居合わせた3名が発見し、協力して軽自動車を持ち上げ、救助隊が到着する前に救出するとともに、応急手当を行ったものです。

緊迫した状況の中、3名の迅速かつ的確な行動により、重症化を防いだことから、その功績を称え感謝状を贈呈しました。



【感謝状贈呈後の記念撮影 ※1名は別時刻に贈呈】

◆ 水圧開放シャッターの警防調査を実施

西宮市消防局(兵庫)

西宮市消防局北消防署では、令和3年7月26日(月)、管内の事業所の協力を得て、水圧開放シャッターの警防調査を実施しました。

これは、同シャッターの型式、設置位置、作動状況を確認するとともに、関係者に対して適切な維持管理を依頼したものです。

関係者に説明した内容は、同シャッターが消防用設備等の点検報告制度の対象に該当しないため、適切に維持管理されていないケースがあることや維持管理不足により消防法令違反となる可能性があることです。

今後も、積極的に警防調査を実施することで事業所との連携を深め、警防体制の強化を図ってまいります。



【警防調査の様子】

◆ 宮城スタジアムで東京2020オリンピック競技大会の開催に伴う消防特別警戒を実施

塩釜地区消防事務組合消防本部(宮城)

塩釜地区消防事務組合消防本部では、令和3年7月21日(水)から31日(土)までの間、管轄する利府町にある宮城スタジアムにおいて、東京2020オリンピック競技大会の開催に伴う消防特別警戒を実施しました。

これは、同スタジアムでサッカー競技10試合(有観客:全日程累計入場者数19,150人)が行われたことから、有事に備えた消防特別警戒を実施したものです。

本警戒では、宮城県内全消防本部(局)から応援をいただき、当消防本部としては過去最大規模の態勢で実施したところ、大きな災害もなく無事終了することができました。

今回のような貴重な経験を今後の業務に生かすとともに、より一層地域住民の安心・安全に努めてまいります。



【ミーティングの様子】



【会場巡視警戒の様子】

◆ 地元企業を消防団協力事業所に認定

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和3年8月1日（日）、鴻池運輸株式会社滋賀流通センター営業所を消防団協力事業所に認定しました。

当消防局では、「消防団との連携強化」を重点項目のひとつに掲げており、この認定で管内7事業所目の認定となりました。

同事業所は、運輸事業を全国展開されており、有事の際にはトラックにより物資などを運搬していただけるほか、広大な事業所の敷地を避難場所として提供していただけることとなりました。今後も、大規模な災害等に備え、地域との連携の強化を図ってまいります。



【認定証交付時の様子】



【認定証交付後の記念撮影】

◆ 職員がすべて手掛けた啓発動画を配信！！

熊本市消防局（熊本）

熊本市消防局では、令和3年8月1日（日）、職員が企画から撮影、編集までをすべて手掛けた啓発動画を2本配信しました。

1本目は、この時期にピークを迎える熱中症の発症と、これから増えてくる「隠れ熱中症」を防止する観点で作成した「動画：夏の天敵 熱中症対策！」です。

2本目は、熊本城の天守閣全体の復旧が完了したことに合わせ、天守閣を舞台に熊本城おもてなし武将隊とコラボした「動画：人命救助でおもてなし」です。

両動画は、当消防局公式YouTubeチャンネルで配信しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止で行動が制限されているこの時期に視聴していただき、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いです。

※動画は以下のQRコードからご視聴できます。



【「夏の天敵 熱中症対策！」
動画サムネイル】



【「人命救助でおもてなし」動画サムネイル】

◆ 「オンライン浮いて待て伝達講習」を実施

砺波地域消防組合消防本部（富山）

砺波地域消防組合消防本部では、令和3年7月2日（金）から8月2日（月）までの間に、管内の小学校教員に対して「オンライン浮いて待て伝達講習」を合計5回実施しました。

これは、毎年、水難事故の発生が多くなる夏季の時期に合わせて実施しているもので、今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン（Z o o m）で消防庁舎と小学校を接続して実施したものです。

講習では、潜水救助隊員により、「呼吸をしたまま浮いて待つ」ことの重要性を伝達するとともに、水難事故を予防するための知識や技術を伝達しました。

受講した教員からは、「これまでの講習はプールで実技を教わっていたが、今回は映像により、その理論やメカニズムをより分かりやすく知ることができ、理解を深めることができた。」という言葉いただきました。



【講習の様子】

◆ オンライン防火指導を実施

名古屋市消防局（愛知）

名古屋市消防局南消防署では、令和3年8月3日（火）から市内の社会福祉施設などに対してオンライン防火指導を実施しています。

これは、オンライン会議ツール（Z o o m）により、事業者が撮影した映像（事業所内の防火管理状況など）を当署員が確認してアドバイスなどを行うもので、すでに36事業所（8月12日現在）に対して実施しました。

この防火指導では、当消防署が用意した「消防用設備等の説明」や「たばこ、こんろ及び電気火災の注意喚起」などの動画を画面共有することで、適切な防火管理への理解を深めていただいております。

この防火指導を実施した事業者からは、「動画を観るとイメージしやすく分かりやすい」、「接触することがないので感染リスクもなく安心だ」という言葉をいただいております。

今後も、感染防止に十分配慮した防火指導を推進してまいります。



【オンライン防火指導の様子】

◆ 予防技術資格者認定証を交付

那覇市消防局（沖縄）

那覇市消防局では、令和3年8月4日（水）、新たに4名の職員に対して予防技術資格者認定証を交付しました。

予防行政を取り巻く環境は、建築物等の大規模化・複雑化により、防火対象物への査察や防火管理上の指導などが高度化・専門化する傾向にあります。このような状況の中、当消防局においても、火災の予防に関する高度な知識及び技術を有する「予防技術資格者」を養成することが喫緊の課題となっています。

今後も、予防行政のさらなる向上と安全・安心なまちづくりのため、市民の負託に応えるべく消防力強化を目指し、尽力してまいります。



【認定証交付の様子】



【認定証交付後の記念撮影】

◆ オンラインによるインターンシップを実施

志太広域事務組合志太消防本部（静岡）

志太広域事務組合志太消防本部では、令和3年8月5日（木）、Z o o mを利用したオンラインによるインターンシップを実施しました。

これは、コロナ禍でも自宅や学校などにいながら、消防士の仕事をリアルな映像を見て体感してもらうことを目的に実施したものです。

当日は、全国から男女36名の方が参加され、消防隊をはじめとする各隊、各課（計7か所）に配置したカメラ映像を順次中継し、リアルタイムで参加者と意見交換を行いました。

参加者に対して行った事後アンケートでは、「オンラインだと隊員の目線で見ることができてすばらしかった。」、「救急志望でしたが、他の隊や課にも興味が湧きました。」、「熱意のある方が多く、自分自身もやる気が湧いてきました。」などの意見をいただきました。



【オンライン配信の様子】



【梯子車から中継している様子】

◆ 福岡県内初！映画本編前のCMとして消防団加入促進動画を上映

大牟田市消防本部（福岡）

大牟田市消防本部では、令和3年8月6日（金）から令和4年2月3日（木）（予定）までの間、市内にある映画館の全スクリーンで映画本編前のCMとして消防団加入促進動画を上映しています。

この動画は、今年度作成したもので、消防団の活動やチームワークを題材としており、心が熱くなる内容となっています。また、市内の景色や祭りのシーンもあり、当市の魅力を伝える内容にもなっています。

この動画を通じて、幅広い年代の方々に消防団を知ってもらおうきっかけとなることを期待しています。



【動画撮影時の様子】



【動画撮影時の1コマ】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 医薬品情報の周知について（情報提供）

（事務連絡、令和3年8月6日）

消防庁救急企画室から各都道府県消防防災主管部（局）あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

平素より、救急行政の推進について御尽力いただき御礼申し上げます。

救急隊の救急活動については、地域のメディカルコントロール体制のもと、医師による指示、指導・助言、プロトコル策定、救急隊員への生涯教育等を通じて、適切に対応いただいているところですが、先般、低血糖又はけいれん重積状態に対する下記の医薬品の販売が開始されたことにより、救急現場において、傷病者やその家族等が当該医薬品を所持又は使用している状況が想定されるようになりました。

一以下省略一

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/210806_kyuuki_jimu1.pdf) に掲載されています。

【問合せ先】

消防庁救急企画室

小塩、久保田、呉地

電話：03-5253-7529

F A X：03-5253-7532

e-mail：kyukyusuishin@soumu.go.jp

◆ **令和3年1月から同年3月までに発生した製品火災に関する調査結果について**
(事務連絡、令和3年8月10日)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

令和3年1月から同年3月までに発生した製品（自動車等、電気用品及び燃焼機器）の不具合により発生したと消防機関により判断された火災（以下「製品火災」という。）の調査結果を別添のとおり取りまとめましたので、送付します。（別添省略）

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ
(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/210810_yobou_1.pdf) に掲載されています。

【問合せ先】

消防庁予防課予防係 佐藤・田上
電話：03-5253-7523
Mail：yobouka-y@ml.soumu.go.jp

◆ **感染症に備えた消防本部等の業務継続のための施設及び設備の整備について**
(消防消第343号、令和3年8月19日)

消防庁消防・救急課長から各都道府県消防防災主管部（局）長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

平素より、消防行政に御理解と御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。
消防は、災害による被害の軽減及び災害等による傷病者の搬送を適切に行うとされており、感染症の流行が生じた場合においてもこれらの業務を継続する必要があります。一方、今般の新型コロナウイルス感染症の流行においては、職員間の感染拡大により業務の継続が困難となった消防本部が生じるなど、感染症流行下における消防力の維持・確保が課題となったところです。特に、災害発生時に感染症が流行している場合には、災害対応に大きな支障を来すことが懸念されます。
—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ
(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/shyokyu210819.pdf>) に掲載されています。

連絡先
消防庁消防・救急課 高荒、永峯、前田
電話：03-5253-7522
E-mail：shokuin@soumu.go.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0314）1ページ、機関誌「ほのお」2021年4号（4/25発刊）25ページ又は5号（5/25発刊）30ページを参照願います。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」担当：企画課 菅原

原稿データは、kikachosei@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

- ・文章は、Wordで150文字以内で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。

TEL：03-3234-1321 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 菅原

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

記事の投稿に関する注意点

- ・配信日（原則火曜日）に近い時期のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者よりメールを返信させていただきます。

TEL：03-3234-1321 「週間情報」担当：企画課 浅倉

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。